

昭和二十一年一月一日現在

大阪府										
(山) 石川県										
駐屯地	所属軍團	所属師團	所属旅隊	部隊名	兵力概数	司令部所在地	司令官名	摘要		
金沢	第1軍團	第3師團	第3旅隊	第3大隊	六一九	金沢市	ソカ大佐			
					七一		ハタ大佐			
					一三		オカ大佐			
(水) 滋賀県										
駐屯地	所属軍團	所属師團	所属旅隊	部隊名	兵力概数	司令部所在地	司令官名	摘要		
大津	第1軍團	第3師團	第3旅隊		一〇〇〇	大津市	鎌倉大佐			
長浜					三四	彦根市				
草津					六					
(山) 栃木県										
駐屯地	所属軍團	所属師團	所属旅隊	部隊名	兵力概数	司令部所在地	司令官名	摘要		
郭賀	第1軍團	第3師團	第3旅隊		六〇		中佐			
(山) 高山県										
駐屯地	所属軍團	所属師團	所属旅隊	部隊名	兵力概数	司令部所在地	司令官名	摘要		
高山				G中隊						
高田				E中隊	一六〇		中尉			
(山) 兵庫県										
駐屯地	所属軍團	所属師團	所属旅隊	部隊名	兵力概数	司令部所在地	司令官名	摘要		
西宮	第1軍團	第3師團	第3旅隊	第3大隊	一〇〇〇	宝塚	中佐			
甲子園				第4中隊	一七〇		大佐			
鳴尾				第4中隊	二五〇		大佐			
甲子園				通信隊	四五〇	宝塚	中佐			
池田	第1軍團	第3師團	第3旅隊							

駐屯地	所属軍団	所属師団	所属旅団	部隊名	兵力概数	司令官所在地	司令官名	摘要
宝塚	第一軍団	第三師団	第三旅団	第一大隊	七九〇	宝塚	花房大佐	(カンベス中隊)
"	"	"	"	特務大隊	六六〇	"	本陣中尉	"
"	"	"	"	第三大隊	七〇〇	"	三ノ宮中尉	"
"	"	"	"	騎兵部隊	一四〇	"	三ノ宮中尉	"
伊丹	"	"	"	爆撃隊本部	三〇〇	伊丹	カリーデン 三ノ宮中尉	"
"	"	"	"	爆撃隊	三〇〇	"	三ノ宮中尉	"
"	"	"	"	戦車隊	七〇〇	"	バウマン中尉	"
"	"	"	"	第一五〇	三〇〇	"	本宮大尉	"
"	"	"	"	航空通信隊	三〇〇	"	ホルム中尉	"
"	"	"	"	輸送隊	四〇〇	"	ワトソン中尉	"
"	"	"	"	軽重隊	四〇〇	"	ワトソン中尉	"
"	"	"	"	通信隊	五〇〇	"	本宮大尉	"
"	"	"	"	技術隊	三五〇	"	アズマ大尉	"
姫路	"	"	"	第三砲臺	八〇〇	"	アズマ大尉	"
姫路	"	"	"	歩兵隊	三〇〇	"	コリンズ大佐	"
芦原	"	"	"	化生部隊	八〇	"	カウチ大尉	"
"	"	"	"	化学部隊	三〇	"	カウチ大尉	"
"	"	"	"	化学部隊	三〇	"	カウチ大尉	"
河影	"	"	"	化学部隊	一〇〇	"	カウチ大尉	"

大阪府

終戦連絡部一乗

和歌連第一七號

昭和二十一年二月十二日

終戦連絡和歌山事務局

局長 佐藤敏人



終戦連絡中央事務局

總裁 吉田 茂 殿

一般状況報告第九號

司令部内軍政部門、獨立

當地司令部内、軍政部門、一月二十日ヨリ大隊第九八師團

ヨリ完全ニ分離シ第一軍團、管轄トナリ當地軍政部ハ和

歌山縣軍政部 (Military Government Section, Wakayama

Quota Stone) ト稱シ和歌山全部ヲ管轄スルニトナリ二月九日

A-1-0-0.2

0444

ヨリ往復文書、宛名ヲ前記英文ノ通りニ変更シタリ

軍政部幹部ハ従来通りニシテ左ノ三名ナリ

M. O. Schultze, Major, S. C.

B. O. Rausberg, Major, Inf.

J. S. Ranko, Captain, C. A. C.

尚現在司令部所在ノ高島屋ハ此處一月以内ニハ一應返

還シ軍政部ノシハ別ニ獨立家屋ニ移轉スベシ目下右家

屋物迄中ナルモ適當ナルモノ未ダ見當ラズ止ムヲ得サレハ木

造家屋ヲ建造シ度ニトテ縣技師ニ設計圖作製方ヲ命

セシレ既ニ提出済ナリ

三軍隊ノ動靜

日裏二十二月十日報告ノ軍隊ノ移駐ハ大体一月中ニテ完了セ

ルモノ、如ク現在ノ主力ハ往友金屬及西濱工業ノ第三四四工

兵水陸聯隊(名古屋第四兵特別隊團管下) 五五五專

日 大 下 系

記録簿

0443

問學校、第七七戰車大隊(大隊第三五師團管下)ニシテ其
他第三四野戰病院、港灣大隊、兵站大隊、憲兵大隊、米赤
十字、情報隊、鐵道隊、通信隊、兵器隊等總計三千
乃至四千ノ見込

三、艦隊ノ引揚

神戸方面、福海作業進捗ト共ニ各種艦艇ノ破泊數モ
漸次減少シツルニシテ二月十日迄ニ全部引揚ケテ終了シ
ルモノ、如ク岡徳、米榮、西旅館ニ宿泊シタル海軍將士ハ數
人ノ番兵ヲ殘シテ全部神戸方面ニ引揚ケタルモノ、如シ、空母
九月進駐軍艦隊ノ來航以來和歌浦同邊隻影ヲ認メサ
ルハ今更初メテナリ、尚港務局及海軍憲兵司令部モ
同時ニ開鎖シタリ(但シ十二日に到リ新ニ大型戰艦二隻入港
破泊セリ)從テ從來和歌浦方面代間漢業禁止モ艦艇
不在ノ際ハ事實上解除セラルモノト解シ差支ナキ旨司

令部ヨリ十日通達ニツタリ

四、地方務關係

地方務ノ要求ハ一月中、於テハ大体一日一千六百人内外ニテ(月中
地方務者使用數ハ四万八千餘)今後ハ漸次減少スル見込ナル由
ニ通譯ニシテ(月迄ニ神戸ニ轉シタルモノハ十名、福岡五名、若カハ屋
一石ニシテ現在進駐軍用通譯五十名ナリ)

五、明新物資具

一月末迄、接收物資ハ四百三十件ニシテ内返還ト來ルル土地家
屋六十件ニシテ既ニ自由使用ヲ許サレリ其ノ主ナルモノハ
○大日本油脂建物○練兵場○住友金屬ノ一部○市ノ跡
○新田別荘ノ不毛館○文教女學校ノ地ノ島○大島ノ島
波屋○三菱発電機○和歌浦温泉ホテル等ナリ

終戰連絡和歌山事務局

和歌連第ニ八號

昭和二十一年三月十五日

終戰連絡和歌山事務局

局長 佐藤 敏

終戰連絡中央事務局

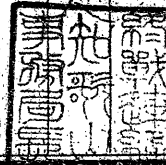
總裁 吉田 茂 殿

進駐軍兵力配置ニ関スル件

本件ニ関シ一月十二日附終戦ノ一普通令第一〇號貴信ヲ以テ御申越ノ趣
了承別紙ノ通調査報告書及提出候條御査閱相成度此段申進又

A'1.002

總務部長
總務部長
總務部長



進駐軍兵力配置表

(昭和二十一年一月末日調査)

府縣名	駐屯地	軍團別	師團別	隊別	兵力數	司令部所在地	司令官	摘要
和歌山	和歌山市	第一						
				和歌山道	五〇	高島屋建物	野村三佐	才五三四 聯隊長
				駐軍司令部				
				才五三四 EIS聯隊	八〇〇	御膳所 住友金屬	三上中佐	
				才五三四 才五三四	七〇〇	西濱工業学校	ハール中佐	
				才五三四 才五三四	六〇〇	和歌山高工	ハール中佐	
				才五三四 才五三四	五〇〇	陸軍第三四部 隊兵官附		
				才五三四 才五三四	二〇〇	成内圖書館		
				才五三四 才五三四	四〇〇	河野村 住友金屬		
				才五三四 才五三四	四〇〇	天幕宿舎 新神津海	上中佐	
				才五三四 才五三四	一〇〇	港務官 新神津海	中佐	
				才五三四 才五三四	一〇〇	海軍警察 新神津海	テイル中佐	
				才五三四 才五三四	四〇〇	其他		
				合計	四三五〇			
終戦連絡和歌山事務局								
				(其他) 米赤十字	才九〇〇	C.I.C.R.I.O. 等	合	
				才六軍一第一軍團				
				(前部)				
				才九八師團		才七六七		戰車大隊
				(前部)				
				才五三四		才五三四		工兵水陸聯隊
				1. 6th Army.				
				2. 1st Corps.				
				3. 98th Division				
				4. ASCOM-0 (Army Supply Command O.)				
				5. 767 Tank Battalion				
				6. 544 Engineer Boat and Shore Regiment.				

116

中国地区经济研究

A:1-0-0-2

軍務

第一師第一課

略號緊急電報

先陸軍省

中國軍務電第一五號

中國軍管區參謀長(唐島)

中國地方總監府ヨリ内務省ニ傳ヘラレ度

地方總監府ハ十月五日廢止ノ由ナルモ本月六日米軍ノ吳地區進

駐ヲ控ヘ當日總監府ノ存置スルヲ否ハ進駐受入上重大ナル影

響アルヲ以テ總監府廢止ノ期日陸軍軍用無線ヲ以テ至

急通電アリ度

柏

岩

近

中

一九四〇年
九月二日
一〇四〇
一五〇

柏
岩
運

8/10 0900 (終)

外務省
陸軍省
海軍省
逓信省
文部省
農商務省
内務省
司法省
大藏省
陸軍省
海軍省
逓信省
文部省
農商務省
内務省
司法省
大藏省

一〇五
受領
〇〇五五〇五
〇六〇八
〇〇四九九
陸軍省
海軍省
逓信省
文部省
農商務省
内務省
司法省
大藏省

急
東
通
佐
鎮
P

平文
第〇四二五〇五番

陸軍省
通報 陸軍大臣 終戰連絡中央事務局

十月四日來駐軍情報

「予ヨレ少將ノ要請ニ依リ司令長官〇九三〇」サンタフェレニ
「予ヨレ少將ヲ訪問ハカクテ、掃討所要日數ノ内容ヲ説明セリ
新橋村迄ノ間ニ進駐軍ノ要望ヲ明ラカニ掃海擔任者ヲ以テ
前打命者ヲ前日午後實施スルトトテ去セリ
通四六〇 平文 佐二放 宇田(川崎)

10-8-10.00

0451

ニ接收終了ニシテ左ノ通

十月三日古里壽崎・スワ、フクシタ、カイドウ、クストマリ各

砲臺面ノ浦浦給工場「二」空廠一十月四日ヒダヒリシ機銃砲臺

岡佐世保海兵一十月四日元針尾海兵ニ移轉ヲ完了ス

岡六〇砲臺防務急進復員機務ノ準備ノ爲十月三日高角砲機銃等一

「シヤマン」艦ニ移載セシ所載船ノ廢棄ヲアリシ爲水深約二〇

米ノイテチイキヲ沈メ目下工廠ノ手ヲ以テ之ガ引揚手配中。

A1002 (2)



外

機密第二二一六〇〇番

昭和二十年九月二十二日

著 吳鎮長 著

大 臣

貴軍ハ聯合軍吳方面進駐ニ際シテハ關係地方機關ノ協力ヲ得テ駐軍港地城ノ全般事項及其進駐地於ケル海軍關係事項ヲ處理スベシ

(譯)

吳地區ニハ米第十軍團司令部ニ對應スル地方事務局ヲ設置セラルルニ付緊密ニ連絡ノ要アリ

(終)

海 軍

吳縣第三七六號
總務部

民國二十年十月二十二日

進駐日誌 第三號

中華民國二十一年十月二十二日

吳縣守府



0454

十月十五日(月) 晴

時刻	記	事
〇七〇〇	鳳翔「ヤルト」ニ向ケ廣灣發	
〇八三〇	第五水陸兩用部隊所屬第十二戰隊司令官「リツクス」海軍少將ノ部下三十三名ハ吳軍港在泊艦艇引渡ニ對スル事前ノ調査ヲ開始ス(三組ニ別レ實施ス)	
一六〇〇	吳軍需部川原石地處ノ引渡シヲ完了ス	<p>一、吳海軍工廠福浦工員寄宿舎ニ格納中ノ左ノ物件十月七日ヨリ九日迄ノ間ニ米兵約三〇名ニ寫取セララル(吳鎮進駐關係事件第五號參照)</p> <p>(イ) 舎生ノ預リ荷物三〇個(内容品ノミ)</p> <p>(ロ) 器具類十一件(机一〇、椅子一〇、マイク一、スピーカー一)</p> <p>電氣時計一、掛時計四、毛布一〇、蒲團六、印箱一〇、電燈傘一〇、窓枠一〇)</p> <p>(ハ) 勤務員ノ私有品(金鏢一六〇圓被服類若干)</p> <p>二、吳海軍軍需部被服新品倉庫及戰給品倉庫ニ格納保管中ノ左ノ物件ハ十月七日夜ヨリ十月九日朝迄ニ米兵ニ寫取セララル(吳鎮進駐關係事件第六號參照)</p>

十月十六日(火) 晴

時刻	記	事
〇八三〇	第十二巡洋艦隊司令部官「リツクス」少將ハ第五水陸兩用部隊司令官ノ命ニ依リ「ブラダレツ」大佐ヲ長トスル米海軍士官三十三名ノ調査圖ヲシテ廣灣江田島等在泊ノ艦船ノ調査ヲ實施セシメタリ	<p>(イ) 航空電熱服 十一組 (別ニ同服中手袋ノミ二十九組)</p> <p>(ロ) 航空手袋 三十六組 (中夏手袋五組)</p> <p>(ハ) 航空靴 二十七組</p> <p>(ニ) 戰車眼鏡 一組</p> <p>三、海軍兵曹池田長一ハ舊吳軍需部倉庫ニ格納中ノ米軍所有ノ毛織「シャツ」ヲ寫取シ米軍衛兵ニ逮捕セララル</p>
一六〇〇	第一四七號輸送艦兩大東島ヨリノ復員還送ヲ終ヘ吳入港	
駐	吳市阿賀町總台山砲臺ニ格納保管中ノ左ノ物件ハ十月十三日〇九〇〇ヨリ十五日一四〇〇迄ノ間ニ米兵ニ寫取セララル(吳鎮進駐關係事件第七號參照)	

備考	時刻	記事
	〇八〇〇 〇八三〇	八雲宮古島ニ向ケ吳發 第十二巡洋艦戰隊司令官「リツクス」少將ハ第五水陸兩用部隊司令官ノ命ニ依リ「ブラダレツチ」大佐ヲ長トスル海軍士官三十三名ノ調査團ヲシテ廣島方面在泊ノ陸軍船舶ノ調査ヲ實施セシメタリ
		「ホビ」號松山ヨリ廣灣歸着

十月十七日 (水) 晴

時刻

記事

事

事件

- (1) 七種野高照準望遠鏡 一〇
- (2) 九〇式高速測定機 一
- (3) 携帶燈 三
- (4) 九六式管制器十二種双眼鏡 一
- (5) 檢濕器 三
- (6) 電話機 四
- (7) 測距儀旋回望遠鏡 一

十月十八日 (木) 曇

備考	時刻	記事
	〇九〇〇 一八〇〇	吳方面ニ對スル米軍進駐ニ拘ラズ海軍兵器、軍需品及諸施設ノ接收ニ關シテハ遲々トシテ進捗セズ當司令官部ニ於テハ中央及現地米軍側ニ對シ之ガ促進ニ努力シ來リシガ進捗容易ナラズ 林尾吳工廠長、矢牧參謀副長、磯部參謀、第十軍團司令官部ヲ訪問海軍關係兵器、軍需品等ノ接收促進ニ就テ打合せヲ行フ(米軍側引渡目録未檢討ニ付細目決定スルニ至ラズ) 菊丸北大東島ヨリ復員還送ヲ終ヘ吳入港 歸還人員(括弧内ハ入院)海軍四〇四(二)軍屬一二(〇)計四一六
		松山地區ハ十月十六日先遣部隊約二ケ中隊來駐主力約一二〇〇〇名ハ二十一日進駐榑木左ノ場所使用ノ豫定 松山基地及附屬建物全部陸軍聯隊地區(練兵場ヲ含ム) 道後附近宿屋六、丸善石油倉庫、横河原陸軍飛行場

事

十月十九日（金）曇

時刻

記

事

○七〇〇
○九〇〇
○九三〇

一二六號海防艦吳出港廣灣ニテ燃料補給後（マロエラツプ）ニ
向フ
米海軍「モズレ」大佐本府今井機關參謀潜水艦接收ニ付打合セ
ヲ行フ
矢牧參謀副長、磯部參謀廣島縣地區接收擔任部除タル米第四十
一師團ト折衝セル結果同地區ハ接收根本方針左ノ通決定ス
（イ）府中、西條、可部ヲ通ズル以南ノ廣島縣ヲ第一次トシ其ノ他
ハ相當運ルル豫定ナリ
（ロ）第一次接收地區ヲ更ニ左ノ三區ニ別ケ接收ハ吳地區ヨリ開始
ス
廣 地 區 一六三聯隊
吳 地 區 一六二聯隊
（イ）右以外地區（矢野、西條ヲ結ブ線以北）
（ロ）右接收ハ差當リ進駐部隊ノ居住（内容物ヲ含ム）ヲ主トス
吳、松山地區先任指揮官「ローシヤーズ」海軍少將ヨリ長官宛
左ノ指令（要旨）アリタリ
（イ）十月二十一日米軍伊豫灘經由松山、三津ヶ濱地區ニ進駐ス
（ロ）三津ヶ濱燈台ノ五裡圍内（但シ北緯三三度五四分南方東經一

四〇〇

三二度四分西方）ニアル全船船舳ハ十月二十一日迄ニ由
良灣又ハ堀江ニ錨泊若クハ接岸シオクベシ
（イ）十月二十一日一〇〇以後特令アル迄右海面ノ晝夜間航行ヲ禁
止ス
（ロ）三津ヶ濱地區ノ掃海ニ關シ米海軍先任指揮官ニ能フル限り協
力スベシ
（ハ）三津ヶ濱地區ノ何處ヲ圓滑ナラシムル如ク沿岸地區ノ障害
物ヲ除去スルト共ニ船渠、棧橋、起重機等使用シ得ル如ク整
備スベシ
（ニ）十月二十一日一〇〇以前ニ「カルヴァート」號ニ次ノ書類ヲ
提出スベシ
（イ）三津ヶ濱地區ニ入渠又ハ錨泊中ノ全船船（小舟艇ヲ含ム）
ノ正確ナル目録十部
（ロ）三津ヶ濱泊地ノ改訂海圖五十部
（ハ）陸軍、海軍施設、防禦設備、道路、橋梁等記入ノ松山、三
津ヶ濱地勢圖五十部
吳市廣町佐伯航空隊吳派遣隊保管中ノ左ノ物件ハ十月六日ヨリ
八日迄ノ間ニ米軍ニヨリ寫取セラル（吳鎮進駐除隊事件第八號
參照）
完 一一八
（ロ）二十機双眼望遠鏡 一

備考	時刻	時	事
○七〇〇	〇八〇〇	十月二十日 (土)	(一) 木 發動機要具 籠 二五 (二) 十二種双望遠鏡 二五二
○八〇〇	〇八三〇		(三) 防 毒 面 二六 (四) 氣象觀測用器具 二二 (五) 防 煙 具 二二 (六) 携帶信號燈 二二 (七) 航 空 被 服 三 (八) 九三式特受信機 三 (九) 九六式空無線電信機 三
〇〇	〇〇		(十) 丁式受線器 三三 (十一) 電話器 三三

備考	時刻	時	事
一四〇〇	〇八〇〇	十月二十日 (土)	(一) 伊四〇二號潜水艦吳出港廣瀨ニ回航 二五 (二) 米海軍潜水隊司令「モズレ」大佐吳、廣方面在泊ノ潜水艦及 二五 (三) 特攻隊係調査ヲ行フ 二五 (四) 一ロジャリス一海軍少將ヨリ長官宛左ノ指令アリタリ 二五 (五) 進駐車十月二十一日都中沖假泊二十二日早朝ヨリ上陸ヲ開始 二五 (六) 上陸區分(進駐箇所上陸箇所ノ順) 二五 (七) 松山航空基地 基地北方海岸 二五

備考	時刻	時	事
一五〇〇	〇八〇〇	十月二十一日 (日)	(一) 松山 市内 三津ヶ濱ヨリ高濱港ニ至ル海岸 二五 (二) 三津ヶ濱内港南方ニアル全舟艇ハ現地協定ニ拘ラス速ニ由良 二五 (三) 灣又ハ堀江灣ニ移動スベシ 二五 (四) 十月末現海軍保安隊解散ニ伴ヒ兵器、軍需品等内務省(縣側) 二五 (五) 移還ニ關スル打合 二五 (六) 吳海軍工廠造船部ハ先ニ機装工場地庫(内業工場ヲ含ム)及第 二五 (七) 二、第四立ニ造船船渠ヲ占據セラレ今般與ニ機装工場新現機場 二五 (八) 及船塢工場地庫占據ノ通告ニ接シタルヲ以テ之ガ撤回方極力現 二五 (九) 地交渉ニ努メタルモ應話スルニ至ラズ從ツテ造船部ハ第一、第 二五 (十) 三船渠及造船船台ヲ除ク外殆ンド其ノ機能ヲ喪失シ中央指令ニ 二五 (十一) 依ル船渠ノ修理ハ殆ンド不可能トナリタリ 二五

備考	時刻	時	事
〇七〇〇	〇八〇〇	十月二十一日 (日)	夕風吳出港廣瀨ニテ燃料補給後釜山ニ回ワ(復員遣送) 二五 米潜水艦「ユリエル」一號乘艦ノ潜水隊司令「モズレ」海軍 二五 大佐吳、廣方面在泊ノ潜水艦及特攻隊係調査ヲ行フ 二五 復員收容部本部大竹海兵團ニ移轉ス 二五

江州司令部
陸軍陸軍中央事務局
陸軍部

吳鎮第三九〇號
昭和二十年十月二十九日

總務一課
↓

進駐日誌

第四號

(自二〇、一〇、二二
至二〇、一〇、二八)

吳鎮守府



0459

十月二十二日(月)曇

時刻

記

事

〇六三〇 松山三津方面ニ於ケル米第二十四師團(輸送船團約三十隻)

ノ進駐開始

〇九〇〇 左ノ特別輸送艦無奈廣灣ニテ燃料補給後左ノ場所ニ向テ

右ノ花月・夏月・旗マニラ

右ノ春月ガム

一一〇〇 米海軍「モズレ」大佐一行ニ依ル吳、廣、大、方面在泊、潜水

艦及特攻隊ノ調査終了ス

一六三〇 左ノ海防艦比島方面ヨリ在外邦人ヲ還送宇品ニ揚陸還送

人員左ノ如シ

第六〇號 陸軍軍人四婦女子一九八

第八一號 陸軍軍人四婦女子一四七

第一五八號 陸軍軍人三婦女子一四九

十月二十三日(火)曇

一五三〇 米輸送艦「ジョンハンソン」號「マニラ」ヨリ比島在留邦人一四二名

兩死七一(患者一七)

備考
還送廣灣入港 即日十九號二十號駆潜艇等ヲシテ宇品ニ轉送揚陸セシム

門司方面米第三十二師團左ノ通進駐海兵隊ト交代ス

〇十月十七日レナトレ少佐以下一三〇〇名 下関

〇同 十九日ワトソン中佐以下五〇〇名 門司

〇同 二十一日クラーク少佐以下一〇〇〇名 小倉

〇同 二十二日 ハ〇〇〇名

事件
十月二十三日ニ〇三〇米兵三名吳在泊特務艦筑紫丸ニ侵入約一時間ニ亘リ船内各部ヲ搜索セル後退艦ス(被害ナシ)
(吳鎮進駐關係事件第十號参照)

十月二十四日(水)晴

一〇〇〇 米第三十二師團第一三八聯隊「ラダ」大佐以下二二六名 防府

通信學校(北校)ニ進駐(二十七日兵カハ五〇名トナル)

一五〇〇 施設部大應倉庫(一部欠)ノ引渡ヲ了ス

一六〇〇 宵月・祠・樞・島燃料補給ノ為吳出港廣ニ向テ(補給終了後マニラ行)

午 米戰艦隊司令官「オーデンドルフ」海軍中將「G」ニテ廣灣着

備考

一〇九〇〇 青崎首席参謀中央連絡事項ヲ長官報告
 (関係者参加)
 二 米陸軍ゴート代将ヲ指揮官トスルハ〇〇名十月二十三日
 一三三〇ヨリ岡山地区ニ進駐(二十七日兵力五〇〇トナル)
 三 米第二十四師団司令部ヨリ左ノ命令アリ
 (一) 全四國ノ海陸軍兵器ハ第二十四師団之ヲ接收ス(米海軍ニ代リテ第二十四師団之ヲ行フ旨宣言ス)
 (二) 各縣ニ在リテ各名宛米軍調査國ヲ派遣ス
 (三) 四國海陸軍代表ハ二十七日ニ〇〇迄ニ引渡目録一通ヲ松山米第二十四師団司令部ニ提出ス(寫一通ハ各縣府ニ保管米調査國ニ交付ス)

十月二十五日(木)晴

〇七〇〇

左ノ艦ハ吳弁廣ニテ燃料補給後復員輸送ニ向フ
 (艦名 吳弁時刻 行先 噸)
 樫 杉 〇七〇〇 マニラ 楓 一三〇〇 文島
 樫 〇九〇〇 マニラ 高根 一三〇〇 大バオ
 樫 〇九〇〇 大バオ 竹 一五〇〇 木ナマ

備考

樫 一〇〇〇 大バオ 波太 一五〇〇 ガム
 一〇〇〇 マニラ 筑紫丸 一六〇〇 大バオ
 一 潜水艦佐世保廻航ハオードンドル中將ヨリ書翰ヲ以テ特令スル返航行ヲ禁止セラシタルモ我方ノ申入ニ依リ既定計画通行動(行動日程一日宛線下)スルトナレリ
 二 米第十二巡洋艦戦隊司令官リッパス少將ハ米海軍先任指揮官オードンドル中將ヲ指令ニ依リ一〇二哨戒艇ハ阿多田及津久茂ヲ拿捕スル旨通告セリ高一〇二哨戒艇ハ十月二十八日廣瀨ニ回航(米海軍拿捕委員引渡スバク阿多田津久茂ハ三本日ヲ以テ廣地区連絡部ヲ廢止ス)

十月二十六日(金)曇

〇八〇〇

佐世保回航潜水艦第一群(波勝年 156 157 158 159 162 203 号 50)
 吳弁佐世保ニ向フ(二十八日相浦着)
 桐復員輸送ノ為 マニラニ向ケ吳弁
 長官米戦艦戦隊司令官 オードンドル中將(廣瀨破泊中、CGIニ乗艦)訪問
 一 二 〇 〇 汐風 吳弁廣ニテ燃料補給後釜山ニ向フ

一三〇〇
一三三〇

備考

本府ニ於テ掃海ニ関スル折合實施
 オートンドルフ海軍中將(參謀長帶同)カイバト陸軍少將
 江田島海軍兵學校視察長矢野參謀副長右安内
 長官オートンドルフ海軍中將訪問、際同中將談話互ノ通
 一貴官が當地区ノ接收ニ関シ異常ノ努力ヲ傾倒サレテ困難
 ナル事業ヲ遂行サレシアルコトハ既ニワリフシエナイダレ少將
 ヲリ番細義知セル所ナリ
 二米海軍ハ艦艇若干ヲ接收スル他陸上諸施設ハ全然接收
 スルコトナシ陸上諸施設ノ接收ハ米陸軍之ニ當ルベキモ復
 員關係其ノ他ニテ要望ノ件アラバ陸軍ニ申入ラレ度又
 當方ニテモ御便宜ヲ計ルベシ
 三潜水艦航行禁止ノ件ハ取消シタルヲ以テ佐世保ニ回航シ
 差支多シ米艦(一隻)支那船(二隻)ハ引渡サレ度
 四如何ナル國語ヲ話シ又如何ナル國籍ニ在ルニモヨリ人ノ意志
 ハ充分ニ諒解シ得ルモノナリ本日ノ御來訪ヲ感謝ス

十月二十七日(土)晴

〇ハ〇〇 黒島 吳彥鎮海ニ向フ

一〇〇〇
一三〇〇
一四〇〇

海一四ハ吳彥廣ニテ燃料補給ノ後復員輸送必バオニ向フ
 米輸送船二隻(バオ)ヨリ在外邦人計三〇〇名ヲ還送 廣
 着(檢疫ノ後港務部兵船何多田岸ニテ半品ニ揚陸)
 佐世保回航潜水艦第一群(連日被破203, 455, 203) 吳彥係佐世保
 三向フ
 吳鎮座下臨時一般會報開催
 菊丸廣灣弁復員輸送(北大東島)ニ向フ
 一米第二十四師團ニ依ル四國海陸軍兵器接收豫定左ノ通
 要更セラル

(1) 調査團出發 二十八日(日)
 調査期間 約一週間
 (2) 接收部隊出發ハ調査開始三週間後
 二米軍病院關係員五〇〇名兵學校ニ遷駐生徒館ハ米
 軍病院トシテ使用セラレル豫定
 三兵船渠ニ在ル蚊意(百六基)ハ米軍側ニ於テ艦側ニ遷サ
 一米ノスリットヲアケ使用不能又大浦ニ在ルモノ(十四基)ハ
 爆破處分セリ
 四防府通信學校ハ米第三十三師團第一二八聯隊接收ヲ行ス

○ ○ (二十六日)レゾー大佐以下八五〇名進駐
五、岡山地区ブードレ代将ヲ指揮官トスル約五〇〇〇名進駐
終了

十月二十八日(日)晴

〇七〇〇 佐世保回航潜水艦第三群(釣島、波、105、106、109、川、魁、潜、19、20)

一三〇〇 吳奈佐世保之向
米側ノ要求ニ依リ一〇三哨戒艇(旧米艦)スチエーワトトヲ吳奈

一五〇〇 廣瀨ニ回航米員退去引渡ヲ了ス(拿捕)

二四〇〇 本府ニテ廣島縣地区接收打合實施

備考 一、佐世保回航潜水艦第三群中、波、205、ハ佐世保回航途中
主核械、如、奈電核不良ノ為、吳ニ引返セリ

二、廣瀨着ノ米艦船ニ依ル引揚在外邦人ノ檢疫ハ土空艦廠

軍医科士官ヲシテ實施セシム

事件 一、十月二十七日一九三〇、東吉浦人事部第二課倉庫(九、第十

一空廠工員寄宿舎)ニ米黒人兵約十名侵入毛布約

二〇〇枚ヲ持去レリ

(吳鎮進駐關係事件第十五号參照)

三、十月二日ヨリ同十三日迄、間ニ於テ米海軍軍人十數名ハ、

十一空廠奈、勤務部第一工場ニ階保安隊倉庫ヨリ小銃

計三五劍計三五ヲ持去レリ

(吳鎮進駐關係事件第十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五号參照)

吳鎮第三九〇號ノ二

昭和二十年十月四日

進駐日誌

第五號

(自二〇、一〇、二九
至二〇、一一、四九)

吳鎮守府

十月二十九日(月)半晴

時刻記

事

〇七三〇 海二三 吳榮廣灣ニテ燃料補給後復員輸送外ハオシ

二向ノ

一六〇〇 米軍軍需部廣弥生倉庫接收終了
一六五〇 米軍工廠ニ於ケル艦船修理能力ノ確保ニ關シ米第十軍
團ニ甲入ヲ行ヒ本二十九日同軍參謀長米軍吳基旭隊
參謀長及矢牧參謀副長立會ヒ上現場實地調査
ヲ行フ(最後の決定ニ至ラザルモ米側ハ極メテ同情的
ニシテ當方甲入ハ概テ實現スルモノト豫想ス)

二 米第二十四師團兵器調査團高知縣三〇名香川德
島兩縣各一五名調査開始

三 廣灣ニ於テ水上後滑走水域ニ於ケル魚船並ニ魚網清
掃方米軍ヨリ申出アリ

事件 米兵數名昨二十八日夜海仁會倉庫ニ侵入何人ノ衣類及
水交社毛布ヲ持テ去レリ(詳細調査中)

十月三十日(火)雨後曇

一三〇〇 中國地方總監府官衛長會議(於中國地方總監府)アリ

小山參謀副長出席ス
カレバトト并兼艦中ノ米戰史調査士官ハルマン大尉外

一五〇〇 二名米軍ヲツツ島沖海戰ニ就キ種々質問セリ

(吳鎮進駐情報第二十四号參照)

江田島在泊中ノ阿多田津久茂及三田航(今拿捕)

一、少將ヨリ海防艦27艘2158三宅箕面ノ武装解除不
徹底ノ件ニ就キ二十四時間以内ニ完了スベキ旨抗議ヲ受テ

自下武装解除實現中

二、中國地方總監府官衛長會議關係事項

四、參會者

總監 副總監 總監府各部長 中國軍參謀長 吳鎮

參謀副長 廣島市主要官衛長 吳終戰連絡事

務局長

四、主ナル陳述事項要旨

一、中國軍

海外ヨリ還送邦人用(陸海軍民間共用)宿舍トレニ

守品一万人吳五千八分及其ノ五%ニ對スル病舎ヲ

準備スル旨中央ヨリ指示アリ

(2) 總監ニ付

比島ヨリノ帰還者中、ヤソノ貨弊ヲ持チ帰ルモノ多キモ
現状之ガ兩替ハ禁止シアリ止ムヲ得ズ一人ニ付縣側ヨリ
十月米軍側ヨリ出詰一個宛供給シアリ

(3) 海運局

造船所及港灣關係作業等最近二十四時間服業ヲ
實施スルコトニ指令セラレアリ

(4) 最近放送協會ニ共產系分子入會シ(自由人ノ聲)
(自由、時間)等ノ放送ヲ行フコトトナル模様(總監
府側ノ言)

ハル後毎週一回開催ノ豫定

三十月十八日及二十日ヨリ二十四日迄二回ニ亘リ米陸軍魚子爆彈
調査委員(米陸軍軍医大佐オスターソン)外二名(岩國病ニ
來リ情況ヲ調査セリ)

四十月十九日米第ニ由師團先遣隊士官七下士官兵一八高
知着高知方面調査ヲ開始セリ

事件

寫真枚數件米軍ノ為竊取セラル(吳鎮遠駐關係事
件第十八号)

三十月二十二日ヨリ同二十四日ニ至ル期間ニ於テ兵工廠造機部
工場内各所ニ於テ米兵事務机其他雜品ヲ持チ去レリ

十月三十日(水)晴

一ツツツ 海防艦 2771 6021 1524 76 三宅及箕面ニ対シ米測(カ)海軍中

備考

一、漢工廠ノ件ニ関シ矢野參謀副長第十軍團參謀副長ノ
會談ヨリ製出工場鍊鉄工場機械工場ノ全部及機械
工場組立工場ノ約半分(山ノ手側)並ニ組立工場内工場ノ
使用ヲ許可スルコトニ米軍基地隊司令部ニ於テ書類調
製中トノ回答ニ接ス

現在ノ處第ニ第三船渠ヲ使用シ葛城以下艦艇ノ塗替
及修理ニハ概不支障トモ程度ノ諸施設ハ確保シ得ル
見込
右ノ旨海軍大臣ニ報告ス

海防艦二七以下ノ武装解除ニ関シ米側指示通海員機セル旨矢模參謀副長ヨリ少将ヲ訪問説明セル處極大ニ満足ナル旨表明セリ

三大竹岩國海面ノ掃海ヲ成レバノ速ニ実施スル件ニ関シヨリ少将ニ申入レル處速ニ日本側ノ意ニ副フ如ク便宜ヲ圖ル旨言明アリ

四、吳鎮守府各地區統制規程ヲ廢止シ各地區統制ヲ要スル事項ハル今所在先任庁長實施ノコトニ命令セリ

十月二十五日〇七五〇米兵五名工廠中六電話交換所ニ侵入自動交換器一組ヲ持テ去レリ

(吳鎮守駐閣係事件第十六号ノ参照)

十月二十六日〇七五五米兵二名工廠中央電話交換局倉庫ニ侵入電池一四ヲ持テ去レリ

(吳鎮守駐閣係事件第十七号ノ参照)

十月一日(木)晴

海防艦八七 吳ヨリ廣ニ回航燃料補給ヲ受ク

海防艦二〇 吳ヨリ廣ニ回航燃料補給ヲ受ク

一五〇〇 海川燃料補給ヲ為廣掃技(蘇見島經由マニヲヨリ)

一九〇〇 港中

備考 一、佐世保回航潜水艦第二群中伊三六ハ二十九日宮崎沖ニ於テ遭難セルモノ如シ(伊三六報)

同第二群中波二〇四ハ同日入堂津ニ於テ壱嶽伊三六ハ右列却係業ニ協力中ノ等ニ對シテハ海軍大臣ニ報告ニ關シ係鎮守府司令長官ニ通報スルト共ニ司令官ハ特攻戰隊司令官ニ對シテ佐伯防司令ヲシテ搜索並ニ列却係業ニ從事セシムベキ旨電命セリ

二、松山水路航行禁止解除ノ旨米第五十五機動部隊ヨリ通知アリ(十月三十一日附)

三、蘇沼中佐「ラウド」大佐ヲ訪問シ掃海ニ関シ打合ヲ行フ其ノ際大竹岩國海面ノ掃海ハ十月十日頃ヨリ只ハ防備隊兵力ヲ以テ實施スルコトニ所司令部ニ連絡中トノ回答ニ接セリ

四、廣灣水上核滑走水域ノ魚業禁止ノ件完全ニ實施セラレタル旨ノ通報アリ廣島縣庁廣警察署ヨリ即日米側ニ通告ス

五、十月三十一日大分基地ニ米第二次進駐軍カイン陸軍中佐